

基本目標	安全で快適な魅力あるまちづくり【都市基盤・安全】
施策名	公共交通

バランスのとれた地域の公共交通体系の確立にむけて、市民、交通事業者、関係機関などとの連携を通じて、鉄道やバスの利用促進を図るとともに、利便性の高い公共交通網の形成や公共交通空白地域の解消などの取組を推進します。

施策が目指す蒲郡市の将来の姿

- 子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系が確立されています。
- 地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系が形成されています。

◆具体化した施策の取り組み実績

1 協議会と連携計画の策定

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
蒲郡市地域公共交通会議の設置	会議実施	会議実施	会議実施
蒲郡市地域公共交通総合連携計画策定	実施	計画実行	計画実行

2 公共交通の利用促進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
名鉄西尾・蒲郡線の利用実績(千人)	3,242	3,173	3,219
塩津駅前広場整備事業	整備工事完了	事業終了	
名鉄バス東部市単独補助路線 利用実績(千人)	212	219	221

3 交通不便地域の対策

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
タクシーチケット配布数(人)	3,506	3,751	3,860
形原地区支線バス運行事業 利用実績(人)	—	運行計画策定	2,930

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
名鉄西尾・蒲郡線 利用目標及び実績	目標値	3,153	3,186	3,219	3,219
	実績値	3,242	3,173		平成32年度
交通結節機能を高める	目標値	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%		平成32年度
チケット利用率	目標値	75.0%	75.0%	75.0%	90.0%
	実績値	71.9%	69.7%		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
名鉄西尾・蒲郡線利用目標及び実績	名鉄西尾蒲郡線活性化協議会による名鉄の利用目標を策定。
交通結節機能を高める	JR・名鉄の利用者への駐輪場や駅前広場の改修を行い駅の付加価値を高める。
チケット利用率	チケット利用者数÷チケット発行者数×100

◆指標の分析

<ul style="list-style-type: none"> ・蒲州市、西尾市及び愛知県による利用促進施策の実施 ・市民まるごと赤い電車応援団(蒲州市)、にしがま応援団(西尾市)による利用促進の実施 ・名古屋鉄道株式会社による利用促進策の実施 ・現在の駅前広場を800㎡から3,640㎡に拡張し、駅への進入路をW=21.5m(車道W=7.0m、歩道W=7.25m、延長L=120m)とし、利用者の利便性を良くする。 ・タクシーチケットを受け取るだけで、利用されない方が約3割弱存在する。
--

◆今後の方針

<p>施策の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄の利用促進PRに努めており、利用実績は増加傾向にあるが、収支改善には至っていない。 ・応援団へ利用促進を依頼するものの、イベントが多く関係者の負担が増加 ・市職員をはじめ、沿線企業へ通勤による定期券の購入のお願い。 ・名鉄側のインフラ未整備(磁気カードの未導入)によるウォーキングイベントの開催が難しい。 ・駅利用者が急激に増大した場合、バリアフリー化が必要となる。 ・年々、チケット配布対象者(70歳以上)が増加するので、事業見直しの必要性を検討する。また、受け取った方には、利用を促す方策を考える。 ・ラゲージバスによる無料送迎バスの運行開始など、路線バスを取り巻く環境が変化してきており、更なる検討が必要となってくる。
--

<p>今後の施策展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した利用実績の確保のための、定期利用者の推進。 ・大型イベントの実施による利用者数の増加を図るなど、名鉄存続の一層のPRの実施。 ・市内公共施設など、名鉄利用者への特典企画の実施。 ・バリアフリー化が必要となったときについては、JR及び名鉄との協議を行い、予算措置をしていく。 ・蒲州市地域公共交通総合連携計画に基づき、平成27年4月よりフィーダー路線の試験運行と、既存路線バスのルート・ダイヤ等の改変を行ったことから、これらの評価、改善についてPDCAサイクルを実施していく。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	平成26年3月に策定された蒲州市地域公共交通総合連携計画に基づき、フィーダー路線の実験的導入、既存路線バスの一部再編を検討し、平成27年4月よりそれぞれ運行が開始された。しかしながら公共交通を取り巻く環境は依然として厳しい。積極的に利用促進活動等を展開し、また地域と協力することで持続性の高い公共交通体系の形成が必要となってくる。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
	コメント	地域公共交通については、新たに地域公共交通網形成計画の策定が求められており、検討を開始している。 今後も利用者の増加のためには、駅周辺の整備等が必要になると考えている。 既存の公共交通とフィーダー路線やタクシーチケット補助の組み合わせにより自家用車に依存しなくてもよい交通網を築いていきたい。